

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【 横浜市立 鴨志田緑小学校 】

1 実践テーマ	【スポーツに対する興味・関心の向上】 【スポーツを楽しむ心の育成】
2 実施対象者	(1) 学校における活動 ①4・5年生 ②全校児童 ③全校児童 ④6年生 ⑤6年生 ⑥6年生 ⑦全校児童 ⑧全校児童 (2) 地域における活動 ①希望者 ②希望者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(総合) コロンビアのパラリンピアンとの交流会 ② 教科名(体育・道徳) オリンピアン中瀬卓也講演会 ③ 教科名(体育・道徳) 日本体育大学レスリング部によるレスリング教室 ④ 教科(体育) 走り方教室 ⑤ 教科(算数) 速さの学習でのオリンピックの映像活用 ⑥ 教科(社会) 地域の方による1964年東京オリンピックのお話し ⑦ 行事名(特別活動) 長縄大会 ⑧ 行事名(特別活動) かもの子ラン(マラソン活動) (2) 地域における活動 ① イベント名(ふるさとマラソン) ② イベント名(よこはま国際ちびっこ駅伝大会)
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育 オリンピック・パラリンピック教育とは、オリンピックの理念(オリンピズム)、パラリンピックの理念について学ぶとともに、オリンピック・パラリンピックの価値を体験的に教えていくとする教育的活動のこと。 障害者理解 ボランティアマインド スポーツ志向 (本校の取組) スポーツへの興味・関心を高め、様々なスポーツを体験することにより、児童生徒にフェアプレーやチームワークの精神を身に付けさせるとともに、心身ともに健全な人間を育成していく。(日常の教育活動の中に、スポーツの活動を取り込む)。 豊かな国際感覚 日本人としての自覚と誇り オリパラを通じた学び オリンピック・パラリンピックを教材として扱うことで、スポーツに対する興味・関心をもてるようにする。 道徳：全学年 国語：5「日記を読んで自分の生き方について考える」 社会：5「情報分野」6年「歴史分野」 算数：6年「速さ」 フェアプレー教育 5年区球技交流会 6年市球技大会 各学級の体育科による実践 スポーツの体験 オリンピック・パラリンピックを教材として扱うことで、スポーツに対する興味・関心をもてるようにする。 全校レスリング教室 11/21(水) 日本体育大学レスリング部部長 松本慎吾さん他 一校一実践マラソン運動 10月～3月 6年体育大会・走り方教室 オリパラについての学び オリンピック・パラリンピックについて学ぶことで、スポーツに対する興味・関心をもてるようにする。 コロンビアのパラリンピアン講演 9/20 日体大オリンピアンパラリンピアン講演 未定

5 取組内容

○オリパラを通じた学び

・6年生の算数の学習

陸上競技の映像や車いすマラソンの映像を見せ、時速などの速さを求める学習に活用した。

・6年生の社会科の学習

1964年の東京オリンピックにボランティアとして参加された地域の方を招いて、当時の日本の様子やオリンピックの様子についてお話をいただいた。

○スポーツの体験

・全校児童 レスリング教室

日本体育大学レスリング部（アテネ・北京オリンピック出場/リオデジャネイロオリンピック日本代表コーチ/日本体育大学レスリング部部長 松本 慎吾さん）を招いてレスリング教室を実施した。レスリングの基本的なかまえなどを教わった。代表児童は選手とミニゲームを行った。



・6年生 走り方教室

かけっこインストラクターの方を招いてスタートの仕方やフォームや走り方を指導していただいた。体育大会のタイムトライアル7、100m走、リレーに活かすことができた。



- ・全校児童 かもの子ラン（マラソン活動）
10月から奇数日の中休みに10分間のマラソンを行っている。マラソンカードを配布し、活動意欲につなげている。
- ・全校児童 長縄大会
毎学期に1度長縄大会を実施。目標を設定し、休み時間などに練習を行い、挑戦をした。



- ・希望者 ふるさとマラソン
地域のマラソン大会に参加。かもの子ラン（マラソン活動）の成果を発揮する場として3年生以上の希望者が参加した。



- ・希望者 よこはま国際ちびっこ駅伝大会
2月16日（土）に開催された大会に希望者が参加。かもの子ラン（マラソン活動）の成果を発揮した。

○オリパラについての学び

- ・4・5年生 コロンビアのパラリンピアンとの交流会
コロンビアのパラリンピアン競泳選手 モイセス・フェルナンデス・ガルシア選手とカルロス・ダニエル・セラーノ・サラテ選手を招いて交流会を行った。事前に全校で千羽鶴を作ったり、金メダルを作ったりしてプレゼントをした。児童は東京オリンピック・パラリンピックなどについてのプレゼンテーションを行い、両選手には講演をしていただいた。





・全校児童 オリンピアンによる講演会

オリンピック（中瀬卓也さん 北京オリンピック 体操競技で出場 現日本体育大学教員）を招いて講演会を行った。運動委員会の児童が体操競技についてと中瀬さんについてのポスターを作成し、昇降口に掲示した。講演会では、お話だけでなく、実演を見せていただいたり、代表児童が前転や後転の実技指導をしていただいたりした。



・全校児童 レスリング教室

日本体育大学レスリング部（アテネ・北京オリンピック出場/リオデジャネイロオリンピック日本代表コーチ/日本体育大学レスリング部部长 松本 慎吾さん）を招いてレスリング教室を実施した。オリンピックについてのお話や、レスリングという競技についての説明や実演をしていただいた。



6 主な成果	○オリンピック・パラリンピックに対する興味や関心が高まった。 ・オリンピック・パラリンピックに出場した方々のお話をお聞きすることで、オリパラに対するイメージをもつことができた。 ・開催国の一員として、他国の選手たちや応援に来る人たちに、どんなおもてなしができるかを考える機会となった。 ・世界中の国々の選手を応援できることがオリンピック・パラリンピックの良さであり、それが選手たちの力になることを知ることができた。 ・オリンピック競技を教材として扱うことにより、競技に対する関心を高めることができた。 ・オリンピックやパラリンピックと関わることで、競技に対する興味・関心を高めることができた。 ○スポーツに取り組む意識が向上した。 ・休み時間、積極的に長縄の練習に取り組むクラスが多くなった。 ・自ら目標を立てたり、大会を意識したりして、スポーツに取り組む児童の姿がみられた。 ○道徳的価値を理解する機会となった。 ・夢をもつことの大切さ、諦めない心、努力する大切さ等を、オリンピックやパラリンピックの方々から、学ぶことができた。 ・世界中の様々な人々と関わるができるというオリンピック・パラリンピックの良さを知ることができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	○全校を巻き込んで取り組めるようにした。 ・選手に贈る千羽鶴を全校で作成したり、ポスターを児童の目に入る昇降口に掲示したりした。 ・マラソンや長縄は、全児童が参加できるようにした。 ・オリンピックの講演会やレスリング教室の際には、代表児童を全クラスから数名選出し実際に実技指導も行っていた。 ○地域との関わりを重視した。 ・同じ地域の日本体育大学のオリンピックを招いたり、レスリング部を招いたりして、児童が身近に感じるようにした。 ・地域の方を招いて 1964 年の東京オリンピックについてお話ししていただいた。 ・同じ区内でかけっこ教室を行っている方を招いて走り方教室をしていただいた。
8主な課題等	○継続した活動にすることについての留意。 ・一つ一つの活動がその時だけで終わってしまわないよう、学んだことを継続して活かせるよう、学校生活の中で工夫して取り組むことが必要である。
9来年度以降の実施予定	○校内にオリンピック・パラリンピック情報が掲示できる場所をつくり、各学年や学級の取組を全体化し、積み重ねていけるようなコーナーとする。 ○前向きにスポーツに取り組める機会を設ける。 ・長縄やマラソンや走り方教室など、児童がスポーツに親しめる機会を設けるようにする。